合気道錬身会「第二回全国大会」

群馬杉武館代表　杉本　久

昨年に引続き、合気道錬身会の第二回全国大会が、シルバーウィークと称する、平成２２年９月２２日に東京江戸川区のスポーツセンターで開催された。

錬身会は、かつて塩田剛三・養神館合気道の本部道場長だった千田務師範が、新たに立ち上げた組織で、その法人格はＮＰＯ（特定非営利法人）の認証を東京都から受けている。

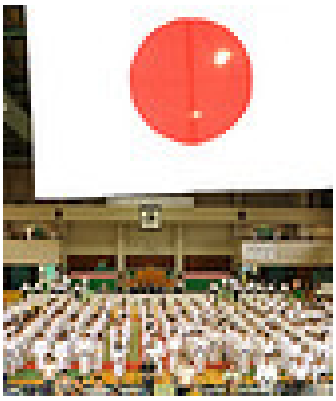
昨年の第一回同様、今回も私が実行委員長として、千田師範を中心に指導部メンバーと何回も打ち合わせを持ったが、いちいち顔を合わせなくとも、現代はｅメールという武器があるので、週に一回程度の合同会議でなんとか済んだ。しかしながら昨年来の１００年に一度の大不況と、新型インフルエンザのパンデミック対応も考慮しなければならず、神経は疲れた。

地方に散らばっている傘下道場からの参加は、大変なことではあるが、年に一回のビッグイベントとなれば、みんな張り切らざるを得ない。

千田師範の提唱する大会の骨子は「基本技」であって、決められた基本技を、黒帯以上（初段以上）と、茶帯以下（１級以下）とに分かれ、同じ技を競う。あんな程度で黒帯か？などと、言われるかもしれないので、有段者の方がプレッシャーを感じるに違いない。

合気道は年齢に関係なく、始められ、続けられるという通り、幼稚園児から８０歳過ぎまでの演武参加者であった。園児たちは黄色い声をあげながら、元気よく走り回り、会場からの声援も多い。

この子どもたちが、将来の日本を背負ってくれることになるので、みんなで見守ってやらねばならない。



（開会式）

（杉本大会実行委員長挨拶）

（千田最高師範模範演武）

（杉本演武）

（杉本演武）

（園児演武）